

## 令和3年度 児童アンケート〔後期〕考察

### 〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

### 〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、16項目中14項目であり、その内、8項目が90%以上の肯定的評価で、全体的には良好な結果が得られている。特に「⑤私は係や当番の仕事をやっている。」は、前期に続いて肯定的評価が99%と高く、働くことの大切さや責任ある行動への意識の高さが継続してうかがえる。

逆に、【C】【D】評価に焦点を当ててみると、その割合が20%を超えている項目は、前期と同じく「⑧私は、家の人に学校のように話を話している。」「⑩私は、授業中に自分の考えを伝えている。」「⑬私は、早寝早起きをしている。」の3項目であった。特に「⑩私は、授業中に自分の考えを伝えている。」は、否定的評価が42%と高く、前期の36%よりもパーセンテージが上がっており、さらに指導を見直す必要がある結果となった。

### 〔3〕結果の考察

#### 【学校生活】（項目①～④）に関わって

①、②の項目は、前期同様90%以上の肯定的評価である。「③相談できる友だちがいる。」は85%と良好的な結果ではあるが、「④相談できる先生」の存在について、“あまりいない”“いない”と否定的な回答をしている児童が19%いる。学校生活において学習面や生活面等での悩みは、誰しものが持ち合わせているものである。ここで「相談できる先生」が“いる”“いない”では学校生活に大きな影響をもたらしてしまう。「相談できる先生」の存在は安心感を生む。全ての児童が安心した学校生活を送るためにも教師の日々の声かけは重要であり、児童の様子を常に気にかけて、変化を見逃さない観察力を高めていくように努めたい。

#### 【確かな学力】（項目⑨～⑬）に関わって

「⑨私は、学校の授業が分かる。」「⑩私は、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。」の結果を見ると、どちらも前期に続き90%以上の高い肯定的評価である。これは、「授業が分かる」ことは「聞くこと」がとても重要であるという結果を表し、行き届いた学習規律の徹底がうかがえる。しかし、「⑩私は、授業中に自分の考えを伝えている。」では、否定的評価が42%と高い。この項目は前期の結果を受け、最重要課題として改善に取り組んだ。具体的な改善方法を考え、職員間で日々情報交換を行い、共通理解を図りながらの指導ではあったが、改善が見られず落ち込む結果となった。これはコロナ禍の影響で、教室を二つに分けての分割授業の実施も原因の一つと考えられるのだが“自由に発言ができない”“対話の時間が十分にもてない”などの制約がある中での指導が要因と考えられる。新学習指導要領が目指す「主体的・対話的な深い学び」を追求するためにも研究を継続し、試行錯誤しながらも授業改善を行い、子ども達の表現力を向上させていくよう努めていきたい。

「⑬私は、家に帰ってから勉強をしている。」の結果は、96%と肯定的評価が高く、家庭学

習の定着が継続して見られる。日々の宿題や自主学習の取組が基礎・基本を身につけ、学習意欲を向上させている。また、引き続き家庭の協力体制の維持も高評価につながり、今後も継続して家庭と連携してさらなる学力の向上を図りたい。

#### 【豊かな心】（項目⑤⑥⑦⑭）に関わって

橿形地区小中学校で取り組むことになっている「無言清掃」「靴そろえ」は、これまでも取り組んできた事であり、前期同様その肯定率からみても十分な評価といえる。来年度から小中一貫教育が始動するが、橿形地区の児童、生徒全員が当たり前のこととして習慣化しているこの取組は、将来に向けた人間形成に大きな力となつてつながっている。

「⑬私は、本を読んでいる。」も 85%と肯定的評価が高く、日頃から本に親しんでいる児童が多いと分かる。読書は知識だけでなく心も豊かにしてくれるので、これからも読書教育の充実を図りたい。

「⑭私は、自分からあいさつしている。」についても、引き続き肯定的評価が 87%と高い結果を得ている。日頃から、児童会活動の「あいさつ運動」や「小中連携あいさつ運動」等の定期的な取組が、全校児童に浸透しているからだと考えられる。「あいさつ」は誰でも出来る簡単なコミュニケーション方法だから、今後ともさらに肯定率を高めたい。

#### 【健やかな体】（項目⑮⑯）に関わって

「⑮早寝、早起きをしている。」「⑯朝ご飯を食べている。」の肯定的評価は両方とも 80%以上と合格点ではあるが、【C】【D】の否定的評価の児童が存在することに不安が残る。不規則な生活や乱れた食生活は、児童の体や心の成長に大きく影響する。学校だけでは解決できない課題であるが、育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも、家庭への啓発を継続して行い「早寝」「早起き」「朝ごはん」への徹底を図っていききたい。

#### 【その他】

##### [項目⑰⑱に関わって]

前回と比較すると、携帯電話・スマートフォン所有率が 43%と 2%上昇し、所有している中でルールが決められている率も 71%と上昇している。これは、児童 1 人 1 台端末が整備され、全児童が情報端末に触れる機会が格段に増えてきているのだが、便利な情報端末の使い方を間違え、自らの成長を損ない、また大きなトラブルに巻き込まれてしまう事案が多発している。各家庭でも正しい情報端末の扱い方を身につけさせることを急務だと考え、情報モラルの徹底を意識する家庭が増えている結果であろう。さらに継続して学校と家庭が連携して、情報モラルを大切にする啓発活動を積極的に進めていき、子ども達が、情報端末を正しく有効活用しながら、これからの社会を生き抜ける力を育てていきたい。